白神ねぎ

○病害虫が発生しやすい時期となります。
圃場を確認しながら適期防除に努めましょう。
※今年は融雪が早いため、特に注意が必要となります。

【害虫】
タネバエ・タマネギバエ
・６月にかけて発生量が多くなります。定植時の薬効が切れる頃ですので、早期に防除を行いましょう。
例）スタークル灌注であれば、定植後20日くらいで粒剤による２回目の防除が必要となります。（害虫の発生が早まっている＋ねぎに薬剤が吸収されるまでの時間を考慮）

【発生しやすい条件】
・定植から25日以上経過（追加防除が遅れた）
・生堆肥（完熟していない）の投入
・ねぎの連作（残渣がすき込まれた、昨年も発生したなど）
防除対策（ネギハモグリバエ・ネギアザミウマと同時防除薬剤）ダントツ粒剤　３～６kg／10ａ

【病害】
今後の防除目標
①６月に入ると、軟腐病・白絹病の防除時期となります。
・６月上旬　→　夏ねぎ　１回目防除
・６月下旬　→　夏ねぎ　２回目防除
　　秋冬ねぎ　１回目防除
②６月中旬（梅雨入り前）のべと病予防を忘れずに！
※近年は「さび病」も多発しますので要注意。

白神きゃべつ

○害虫の防除をお願いします。
アオムシ・コナガの発生に注意してください。５月中旬から６月上旬にかけて、気温が上昇してくると発生量が増えてきます。
定植時に処理した薬効も切れてきますので、早めの防除を行いましょう。

５月中旬頃	→ プレバソンフロアブル５	2,000倍液
５月下旬頃	→ ジャックポット顆粒水和剤	1,000倍液
６月上旬頃	→ フェニックス顆粒水和剤	2,000倍液

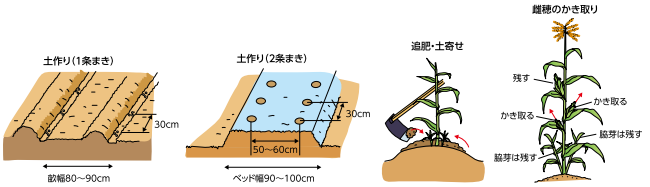
アスパラガス

○定植へ向けて
定植をするために畑の準備をしましょう。堆肥を１反歩あたり２ｔの散布を行ないましょう。元肥は窒素成分で１反歩あたり20kgとします。根域を確保するために高畝にし、マルチを張りましょう。
露地アスパラでは、春芽収穫後に立茎肥として、窒素成分で１反歩あたり10kgの追肥を行ないましょう。

あなたもチャレンジ！　家庭菜園

取れたてが甘くておいしいスイートコーン

スイートコーンは温暖で強い日光を好む強健な野菜です。雄花が雌花より先に咲き受粉のタイミングがずれやすいため、集団で育てることが実入りを充実させるポイントです。
［品種］「みわくのコーンゴールドラッシュ」（サカタのタネ）、「おひさまコーン」（タキイ種苗）やバイカラーと呼ばれ黄色と白色が混じっている「ゆめのコーン」（サカタのタネ）などがあります。
［栽培時期］遅霜の心配のない４月下旬～５月中旬が種まき期で、寒冷地では５月中旬～６月中旬です。
［土作り］畑１平方ｍ当たり苦土石灰100ｇをあらかじめ散布しておきます。次に、畝幅80～90cmを取り、深さ20cm程度の溝を切ります。この溝１ｍ当たり化成肥料（Ｎ－Ｐ－Ｋ＝10－10－10％）150ｇと堆肥１kgを施し、土とよく混ぜておきます。２条まきでは、幅90～100cmのベッドを作り、１平方ｍ当たり化成肥料200ｇと堆肥２kgとを全面に施し、土とよく混ぜておきます。そして、ベッドを平らにならした後、早まきではポリマルチをします（図土作り）。
［種まき］株間30cm程度１カ所３～４粒の点まきします。ハトに食べられないように、寒冷しゃや不織布のべた掛けをしましょう。なお、１～２株の栽培や１列だけでは、花粉が不足しやすいので10株以上、または２列以上の集団で栽培してください。
［管理］草丈10～15cmで間引く苗を切り取り、１本立てにします。追肥は草丈50～60cmの頃、畝１ｍ当たり化成肥料50ｇを列の片側に与え（ベッドでは１平方ｍ当たり100ｇをベッドの両側）、株元へ土寄せします（図　追肥・土寄せ）。そして、上の雌穂を残し、下に付く穂を全て除き、１本１穂にすれば大きい穂になります。なお、脇芽は特に取り除く必要はありません（図　雌穂のかき取り）。
［病害虫防除］雄花がつき始めたころにアワノメイガが葉裏に産卵し、大きくなった幼虫は雄穂や雌穂（子実）に食入します。茎や子実に入り込んだ幼虫を防除するのは困難なので、雄穂が伸びだす頃に殺虫剤を散布します。
［収穫］絹糸が出てから３週間ほどたち、絹糸が褐変して先端の子実が乳白色に着色した頃です。早朝に収穫し、収穫後は急速に甘味が減少するため、早めに冷蔵庫に入れましょう。もちろん、すぐにゆで上げて食べるのが一番です。



牡牛座（4・20～5・20）　のんびり構え過ぎてしまう傾向がチラリ。必要な仕事は後に回さず、早めに済ませて。気晴らしには芸術鑑賞を